

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グルブオーム むつみ苑 (梅ユニット)		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西に有明海、東に小岱山と自然環境に恵まれた地域にあるむつみ苑です。母体施設が整形外科であり、入居者のリハビリにも力を入れている。また、急変時や体調不良時にもすぐに対応が出来るため入居者や家族に安心していただいている。コロナ禍で行事が思うようにできないがユニットごとで誕生会を行い、施設内での生活を楽しんでいただけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年により、最高齢100歳を筆頭に高齢化傾向やコロナ禍にホーム生活もユニット毎に変化する中で入居者の意見や要望を聞き取りし、職員の持つケア力や得意分野を発揮しながらのメリハリのある日常と、自然体で過ごす環境を形成している。職員は入居者の個々の違い等を把握し、理念に基づいたケアの実践にミーティングを重ね、パーソンセンタードケアを実践している。医療法人の運営という恵まれた環境や健康観察を兼ね毎朝院長も訪問されるなど医療の充実は入居者や家族の安心に繋げている。コロナ禍で地域の中での生活や面会が制限されている中、母体医療機関での受診やリハビリは、地域や知人とのふれあう場として生かされ、職員はホームと医院との間に出来た幹線道路の横断には十分配慮しながら支援している。運営推進会議開催が功を奏していることは、横断道路の押しボタン設置に見られ、今後も運営推進会議を通じて地域との関係性や認知症ケア啓発に寄与されることと大いに期待される。職員体制に大きな変化もなく、働きやすい環境のもと職員個々が考えたケアや何事にもチャレンジして欲しいとして、職員の育成に力を入れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を施設内に掲示し、毎月の朝礼で確認し共通理解を図り、実践につなげている。	最高齢100歳という高齢化や、ユニットによる入居者の状態や介護度の違いもあり、地域の中での暮らし方も違いがみられるなかで、理念に即したケアに注視しミーティングでの共有や地域への啓発の一環として運営推進会議で理念を発信している。この2年、職員体制に大きな変化は無く、入居者のメリハリのある生活に職員の日々のケア姿勢が表われたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で地域の方と関わる機会を作り、地域の中で暮らしているという実感を持っていただいている。	コロナ禍により地域の行事や活動も中止となり、地域の中で暮らしている実感を持って欲しいとしてホーム内行事を充実させている。新聞でリサーチした地域の出来事を読んだり、通院すると地域住民から声もかかり、中学生の福祉体験の場を提供する等地域の中の事業所として関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての講演等を地域の住民向けに行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して入居者の暮らしぶりを伝え、入居者や家族の困りごと等を相談し助言を頂いている。	運営推進会議は開催に向け行政と協議し、今年度より対面で開催している。行政・地域包括支援センター、区長等をメンバーとして、介護現場での意見や提案を発信しながら意見を求め、地域の情報リサーチの場としても生かされている。家族の参加は現在は難しく、議事録を手渡したり、郵送により情報を発信している。ホーム側の提案事項が、行政への申し出(区長から)として信号機の時間調整ボタン設置に繋がる等運営推進会議の役割が発揮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所のケアの実際や課題について理解していただいている。	集団指導への参加や、行政や地域包括支援センター参加による運営推進会議時に権利擁護について等事例を相談し助言を得ている。介護認定調査時の情報交換、地域包括支援センターからの地域での生活困難事例の入居相談等相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や掲示物を通して職員一人ひとりの理解を図っている、また、実際のケアに身体拘束になりうる行為がないかを確認している。	主任会議の中で身体拘束適正化委員会を開催し、運営推進会議の中で報告する体制としている。職員の言葉による行動制約に留意し、掲示により意識付けとしたり、ふとした言葉がけ等職員同士が注意喚起している。また、認知症状(暴言や暴力等)に対して全員で検討しケアの共有化を図っている。家族には入居されても施錠していないことを説明する等自由な生活環境であるとともに、入居者個々の外出傾向などを把握している。	入居者の離苑時には地域住民の協力が得られる体制が出来ているが、ホーム前に幹線道路が開通しており、今後も入居者の所在確認の徹底に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して高齢者虐待の理解を図っている。また、職員の言動や入居者の反応に配慮し、職員間で確認し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で学ぶ機会をもち、必要に応じて話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時やその都度入居者や家族の不安や疑問を聴取し、説明を行い理解と納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個人面談や家族との電話等でのやり取りで受けた意見や要望を管理者との協議を踏まえ運営に反映させている。	入居者には職員が聞き取りする他、家族から入居者の声を代弁されることもある。家族会の開催も難しい状況に、苑便りによる情報発信や、電話を通じた聞きとり、家族と話し合いながら対応を共有する等本人・家族の不安も考慮し細やかな連絡に努めている。面会の制限も有る中で、窓越しでの面会時に意見や要望を伺い、管理者と協議し良い方向へと繋いでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で運営に関する職員の意見を聞き、管理者と職員の協議で運営に反映できるように図っている。	各部署の意見交換による要望(設備面や有給の使い方、新型コロナ感染の濃厚接触時の対応等)や意見や提案を運営に反映させている。職員の配置転換時には事前アンケートによりまずは職員の意向を収集している。職員個々の意見を入居者へのより良いケアの実践へと反映させ、職員の持つ力の発揮や、自分で考えて行うケア等を共有し、ケア向上に生かしている。また、職員の勤務歴の長さに働きやすい環境である事が表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員一人ひとりの勤務状況の共有に努め、職員それぞれの個性に適した就業環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を把握し、本人と協議しながら研修への参加や資格取得への働きかけを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインの研修会に参加してそれをケアの向上につながるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は特に本人が困っていること等の情報を集めて不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で本人や家族の抱える困りごとや不安や心配な事を聞き取り希望に沿えるように良い関係がきずけるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人及び家族にとってどのようなサービスが必要なのか見極め、様々なサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通して入居者の生活の在り方を尊重しそこから学ぶことを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活を報告し、本人のケアにおいて家族の支援が得られないかを必要に応じて相談し、共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自由に面会や外出が出来ませんが、馴染みの床屋さんを訪問理容で利用する等できる限りで馴染みの関係とのつながりを大切にしている。	馴染みの場所への外出は難しい状況にあるが、外来へリハビリに出かけると地域の方から声が掛けられたり、家族との窓越し面会、携帯電話での家族とのやり取り、訪問理美容等これまでの関係が継続出来るよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性に合わせて、食卓やソファの場所を調整し、関係が築けるように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係性を大切に必要に応じて本人や家族の相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望や意向の把握に努め、困難な場合は本人本位に検討している。	入居者の思いなど直接の意思表示で把握した事例は職員と話し合い、ケアに反映させている。また、筆談での聞き取りや家族からの情報を生かし(家族が入居の声を代弁)、本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、関係者との情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、レクリエーションへの参加を促すことによって心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や医療チームとの連携を図り必要に応じて家族とも連携を取る介護計画を作成している。	入居時に本人・家族の希望や要望等を聞き取りプランニングに反映させている。職員は申し送りのなかで入居の課題を話し合いケアに反映させている。また、家族には本人が望まれるケアに対してどのようなケアを行うかを説明している。ケアプランに合わせたモニタリングにより達成度を見きわめ、家族の思いに即した個別援助内容のプランが作成されている。介護保険期間に合わせた目標を立て、大きな状況変化にはプランを見直すこととしている。	介護保険期間に合わせた期間で作られているが、入居者の状況変化等申し送りの中で入居の課題をカンファレンスされている。その結果を個別プランに朱書き追加することにより、更に現状に即したプランに繋がると思われ、検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用して、見落としの無いように目を通した際にはサインを行い職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって個々のニーズに応じることが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットを活用して地域資源の情報を得ている。コロナ禍であまり活用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等の支援を行っている。また、通院時の情報を家族と共有するように努めている。	母体医療機関をかかり付け医として訪問診療が行われている。顔なじみの医師による医療支援は入居者の安心するところであり、良好な健康状態の維持、異常の早期発見につながっている。眼科などの他科受診は基本的に家族が対応し、歯科は協力医による訪問診療を利用している。職員は薬袋の文字の大きさなどについても母体と検討し、誤薬のリスクに対応するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職への定時の報告と訪問診療時の看護職への情報の提供で入居者一人ひとりの状況の把握と共有に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体施設への入院加療においてはリハビリ時や診察、定期健診において顔なじみの関係が築かれ、安心して受けられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や面談時に十分な説明を行い、本人・家族の意向に沿ったケアが出来るように取り組んでいる。	入居時に看取り支援に対するホームの方針とともにリスクについて説明し、気を付ける事、気になる事などを話し合い家族と共有している。看取りは生活の延長上にあると捉え、入居者がこれまでの生活を続けながらホームでできる事に力を尽くすこととしている。この夏には家族の協力を得ながら最期の時を支援しており、夜勤専従者に看護職員2名がいることも心強いものとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応を共有し、看護職と連携し応急手当や初期対応が出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応や避難経路を掲示し、いつでも対応できるように工夫している。	年2回の火災訓練と緊急連絡網を使った訓練を実施している。昨年は消防署の協力があり、職員が入居者に扮して参加し、避難経路の再確認や避難状況を把握している。海に面した立地から高波などに備え、行政と連携し防波堤の設置に安全対策が講じられている。備蓄はリストに沿って準備し、日頃から建物周りに燃えるものを置かないなどの注意を払っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、プライバシーに配慮した対応を心掛けている。	入居者の「こう呼ばれたい」など、自身の希望に応じた呼び方で対応している。入居者は言葉だけでなく身振りや手振り、筆談など何らかの形で意思表示をされており、職員は尊敬の念をもって話を聞くように努めている。守秘義務については研修会の中で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者一人ひとりの自己決定が出来るような働きかけを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のペースで日々の生活を送れるように声掛けや関わりに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの好みを把握し、本人が身だしなみやおしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の好みを知り、食事が楽しめるような工夫を取り入れている。	菜園で採れた野菜や季節の食材を使い、手作り調理を継続している。毎月1日は赤飯の日として定着し、入居者の希望を取り入れた食事が提供され、常食やお粥、ミキサー食などで対応している。入居者もおしぼり巻などできる事で食にかかわるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の習慣を把握し、食事量や栄養バランス、水分が十分に摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者それぞれの口腔内の把握に努め、毎食後それぞれの方法で口腔ケアが出来るように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレを利用した排泄介助に努めている。また、声掛けも個々に合わせて行うようにしている。	日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。入居者の中には、日中はポータブルへ移乗して排泄を支援し、ポータブルトイレは清潔を心掛け、洗浄後は特に水切りをしっかりと行い設置している。排便に関しては、便秘の予防として野菜や食物繊維の多い食材の活用、食事や入浴などの水分の補給、レクレーションを兼ねた運動などに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに食物繊維の多いものを取り入れ、水分摂取や運動の重要性を声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を考慮したうえで本人の希望に沿った入浴を行っている。	個々の希望や体調を見ながら午前中を中心に、週2～3回の入浴を支援している。湯温も、温湯・ぬる湯と好みを聞き取っており、「体を洗ってもらうのが楽しみ」と、入浴の日を心待ちにされている方もおられる。また、オイルやクリーム、乳液によるマッサージや保湿も喜ばれている。「湯船の中は怖い」と言葉にされる方には、シャワー浴で対応したり、身体状況から併設するデイサービスの特殊浴を利用される方など個々に応じた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を取り入れ、個々の体調や体力に合わせて休息をとりにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往や症状、内服の把握に努め、症状の変化の有無を観察し、医療機関との情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割をもち達成感を味わっていただき、生活の張り合いが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出を楽しむことが困難なので、季節の花を飾ったり楽しめるように工夫している。	以前のような外出支援が困難な状況であり、隣接する法人医療機関への受診やリハビリ治療は外気に触れる機会である。また、その際は菜園や花壇の様子を見る事で季節を感じる事が出来ている。散歩や日光浴などが出来ない方もおられ、職員は地域の様子や季節の花の話、身近な草花を飾り、外出の気分を感じてもらえるよう努めている。	家族も帰省や外食など一緒に外出できる日を楽しみにされていると思われる。引き続き散歩やペランダでの日光浴、季節や地域の話の機会など個々に応じた支援の継続に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向のもと、職員が一人ひとりの希望に沿って、買い物の代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方もいる。また、希望があれば職員が手助けをして電話を掛けられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは自宅のリビングのように落ち着いて過ごせるよう、家具の配置や装飾を工夫している。温かく感じられるように木材の家具を使用している。	採光や眺めなどは階や場所によって異なるユニットであるが、職員はそれぞれの良さを生かしながら入居者にとって居心地良く過ごせるよう環境作りに取り組んでいる。ユニット内は身体状況に応じて家具の配置や、移動の妨げになる物品はないかなど安全面へも検討を重ねている。家族は、1階は中庭から、2階は回廊式のベランダから入居者の様子を確認でき、感染症への対応として活用している。浴室は溝等感染症への対応から掃除を徹底し、居室はプライバシーに配慮しながら入口の戸を開け換気を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがゆったり過ごせるように広々とした空間の中にソファを配置している。入居者同士や職員と会話を楽しんだり、自由に行き来できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に沿って、家具類の持ち込みや写真等の掲示を行って、本人が安心できる居室作りに努めている。	家族には荷物搬入時に、可能な限り居室内の状況を確認してもらっている。本人が安心して過ごせるよう、持ち込みの物品は新たに購入される必要はなく、家で使われていた物で構わない事を伝えている。押入れが備わっており、使用しない衣類や季節外の寝具などが収納され、居室内には個々に応じて必要な物が配置されている。冷蔵庫の持ち込みは自分で購入する飲み物が入っており、お金を使うという社会性の継続として生かされている。	家族の訪問が制限されている現状であり、引き続き居室内の様子を報告されることで、家族の安心や質問なども出しやすくなると思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安産に移動できるように手すりを設置し、カレンダーや時計を目につくところに設置することで入居者の自立した生活を促している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 (桃ユニット)		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	2022/9/29

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体施設が整形外科なので医療と連携を図りながら通院・訪問リハビリに力を入れており、PT指導のもと個別なケアを行っている。また、ベランダが長くつながっておりコロナ禍でも気兼ねなく散歩ができ、ユニット内の共有空間も広いので十分な活動の場を持てる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は事業所の理念を踏まえ、サービスの意義を共有し、入居者のよりよい生活の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方と挨拶を交わしたり、常に話しやすい状況を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などへの参加を促し、入居者の生活を理解していただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者や家族に意見を求め、サービスにつなげられるように協議し、実践につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題が生じた時は担当の職員と連絡を取り、相談できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯の時間以外は玄関の施錠はせずに入居者や訪問者が自由に出入りできるようにしている。離苑等の事故が起きないように見守りに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	表情や発語に注意しいやな思いをされていないか気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて外部機関と連携を取り、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や法改定の際には対面にて十分な説明を行い、理解と納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議と家族会の実施で運営状況の発信と共に意見・要望の反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署ごとに意見をまとめ主任会議の場で協議したりアンケート形式での聞き取りに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や状況は管理者に報告相談し職場環境の整備につなげられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加斡旋や資格取得のための通学・休暇等個々に合わせて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接的な交流は難しいが、オンライン研修等を通して交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では十分に入居者の生活と気持ちに寄り添えるように声掛け見守りを行い不安なく過ごしていただけるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴、病歴、家族との関係をよく聞いたりうて家族の思いにも応えられるようにサービスを導入し経過の報告にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員だけでなく母体の医療従事者やケアマネ等と情報の共有を図り連携を取ることで本人に必要なサービスの支援を提供できる体制を作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自立心を損なうことの無いように助け合いながら共に生活するというスタイルで過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場に立ったり、本人の立場に立ちながらお互いの良好な関係を崩さないように支援することを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接会うことは叶わないが、電話や届け物の取り次ぎを職員が行いお互いの近況も報告し合い安心していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視覚や聴覚の感覚が低下してきている方でも衣・食を共にすることで互いに理解を深め、洗濯物をたたむ等の作業を通して関わりや支え合いが生まれるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの申し出があれば相談を受け、解決できるような支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	苑での生活の中で混乱したり、自分がどうしたらいいのか分からず不安を抱えている方がいらっしゃるので寄り添いながら本人の意向を確認し治うようなケアに努めている。困難な事例は申し送り等で検討し、試行錯誤している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしぶりについては関係者等の情報をもとに個人ファイルを作成している。また、関わりながら本人から聞かれた情報も職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者一人ひとりの状態の把握に努めている。状態が少しでも変化した時は職員間で共有しケアの方法も含めて話し合う機会をもつように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや生活状況に沿ったケアができるように関係者との連携を取り現状に即した計画を作成できるようにケアマネとの情報の共有に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有やケアの検討等で職員間で話し合う機会が多いが記録に残していないため、記録がケアの実践に活かされている軌跡が少ないことが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍によって入居者の生活に様々な制限があるものの本人のニーズに対してはすぐに対応できるように職員間で話し合い、管理者に相談して実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において外部との接触は難しいが、知人や友人からのこと付けや差し入れ等は受付、本人へ渡し、関係が途切れることの無いようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、小さな変化でも相談し、必要に応じて受診支援を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変や普段との差異があれば常時看護師へ報告できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように環境や症状への対応の体制を整えている。退院後も安心して生活できるように医療職との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングの際に各ユニットの入居者の情報を共有し、予測される変化とその対応について協議し、ユニット間でも協力体制を取りながら重度化におけるケアの充実に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に設備の点検や訓練を実施している。スタッフルームに分かりやすい掲示をし、誰でも実践できるよう工夫をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフルームに掲示してあるものを毎日確認し、避難できるように身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、特に食事・排泄・更衣などプライバシーに配慮した介助・声掛けに努めている。難聴の方にも大きな声で周囲の方に不快感を与えないように会話の場所に気をつけたり筆談等で対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コロナ禍において外出や面会が自由にできない日々の生活の中で思い思いの活動ができるように声掛けし促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分や体調に合わせて通院や散歩などを調整して声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時のモーニングケアはもちろん化粧をされる方や衣類に拘りのあらわれる方等、TPOに合わせた身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いやアレルギー等を把握して彩りや季節の食材の活用にも工夫して楽しく食事をしていただけるように心掛けている。また、盛り付けや野菜の仕分けなど手伝っていただき食に関心を持っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体格、体質、活動量、病状等総合的な判断から一人ひとりに適した食事量や水分量の提供に努めている。形態を工夫したり補助ドリンクの活用もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりに合わせて口腔ケアを促し、義歯の方は就寝時に洗浄剤に浸し拒否のある方にはタイミングを見て促し、実施できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた介助や対応を心掛けているが、本人の認識と職員の対応のズレがあり、うまく支援できていない部分もある。また、オムツの使用を開始するときは本人の思いを大切に実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や腹部マッサージを促している。また、ヤクルトやヨーグルトをおやつの際に提供するようにしている。入居者によっては家族よりさつまいもを差し入れていただき取られている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やバイタル、本人のリハビリ等の予定を考慮し入浴を促している。本人の気分に合わせて入浴できるように心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時は室温や姿勢に配慮し心地よい環境で就寝していただいている。また、「あとで来ますね。」「朝は起こしに来ますよ。」と声をかけ、安心していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の無いように注意を払いながら、一人ひとりの内服の把握に努め、状態の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った手伝いを依頼するようにしている。洗濯物など置いておくと自然に手を伸ばされ、たたんでいただくこともある。数人は歌を口ずさみながら過ごされることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、自由に外出ができないが、通院やリハビリ、散歩や他ユニットへの面会をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や家族の意向、本人の意思も尊重しながら所持して使うことができる機会を支援している。本人からの依頼があれば、職員が代行して希望のものを購入してこくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族等の希望があれば電話を使用し話す機会を支援している。職員が間に入り誰とどのような話をしているかが分かるように支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはそれぞれがその時に座りたい場所で過ごしていただくようにしている。テレビとソファの位置を調整し、テレビを楽しめる方や人の存在を感じられたい方などそれぞれの希望を尊重した空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々としたリビングの中で食卓とソファを配置しているので一人ひとりがその時過ごしたい場所で過ごしゆったりとくつろぐこともできるような環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には普段から使用しているものもちこみやこだわりの生活が継続できるような家具の配置に努めている。また、できるだけ、居室の中での生活が自立できるような部屋づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には手すりを設置することで安全に移動し生活することができるような環境になっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370400576		
法人名	医療法人 社団 昭和会		
事業所名	グループホーム むつみ苑 (桜ユニット)		
所在地	荒尾市荒尾317-1		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

荒尾干潟を一望でき自然に囲まれた環境で入居者一人ひとりが自然体で過ごせるようにスタッフ全体で心掛けています。また、緊急時や体調の変化がある時には母体施設と連携することで安心した生活の継続を図っています。入居者一人ひとりの生活スタイルを重視することでターミナル期においても本人主体の暮らしの実現を図り、気心知れた職員や他の入居者に囲まれることで心身の安定につながっています。職員も一人ひとりの希望する勤務スタイルにできるだけ合わせた勤務を実現することで働きやすさの実践に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、自分たちの目指すべきケアについて意見交換を行いながらケアを実践している。入居者の状態が変わった時は理念をもとにケアの在り方を検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事の実施や、苑内の行事への案内や保育園等との交流会を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーや家族等へ入居者の暮らしぶりについて伝えると同時に認知症の方々が生き生きと暮らす支援について理解していただけるようにも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域でも認知症の方を支援していくために、地域と事業所での情報の共有を図る機会になっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導や運営推進会議等で市の担当者との連携を図っている。また、介護保険課に限らず各部署と連絡を取り合い、入居者の生活を支援している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して職員が身体拘束について理解し、入居者一人ひとりが自由に動けるような環境づくりと職員のケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会を作り、日々のケアの中でも入居者にとってどうなのか？考え、職員間で検討するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会等に参加し、必要とする方には活用できるように、本人、家族、職員で検討するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の締結を行い、ケアの内容についての説明を行っている。その際疑問や本人の生活についての意見交換や家族の協力等も確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や荷物持参時、電話でも気軽に意見を言ってもらえるように心掛けている。適当な意見は上司と相談し運営に活かせるように図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員と上司で意見交換を行っている。コロナ禍において職員で集まることは難しくなっているが、職員が意見を言いやすいように心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きぶりや意欲等を把握できるように努めている。また、職員からの希望があれば勤務形態についてもできるだけ調整できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が成長できるように内部異動を実施し、育成に努めている。職員それぞれでも資格の取得や研修会への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際には互いの事業所の現状等の情報交換を行い、適当な情報があればサービスに活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはそれまでの生活状況の把握に努め、本人のニーズを抽出するように努め、時間をかけて関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人のケアについて家族と協議し、家族の思いを理解したうえで、本人の心身の状況について家族と共通の理解が図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状の暮らしの把握に努め、家族の暮らしや本人との関係性を理解し、介護保険やその他のサービスについて情報を提供するとともに家族や本人が苑に望むことの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの能力や素質を見極めていろいろな役割を担っていただくように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が協力できることを家族に相談し依頼することで共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は難しいが、暮らしていた地域のことや季節の行事、地域の食べ物等、馴染みのある話をする事で関係が継続できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話を楽しむばかりでなく、利用者の存在が利用者を支える関係にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に声を掛け合い、相談しやすい関係づくりに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや嗜好など、入居者に関する情報は職員間で共有できるように努め、本人の望む暮らしの実現を支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人と家族、関係者からの情報をもとに本人の暮らしぶりを把握し、可能な限りそれが継続できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身の状態把握に努め、一日の生活を見直している。その中でも本人の望む環境の中に身を置くことができるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意思や家族の希望、本人の生活状況から見越した経過を踏まえ、本人のニーズを苑での生活状況の中で満たしていけるような介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には、本人の言動が分かるような記録のあり方に努め、職員での情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望され、応じることができる範囲で柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりのこれまでの生活を把握することで本人のこれまでの暮らしに関わってきた地域資源を知り、苑での生活でもそれを感じられるように会話をしたり、取り入れたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週の訪問診療時に限らず医師との情報交換を図り入居者一人ひとりの健康的な生活や体調変化への迅速な対応を心掛けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師との情報の共有を図り、職員が気になっていること等を気軽に相談できる関係を築き、入居者の生活を共に支えている。また、管理者や看護職員との連携を図ることでその時に必要な看護を入居者が受けることができる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療従事者との情報交換を図り、安心して治療を受けられることと、生活機能の維持を図れるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期もそれまでの苑での生活を継続できるように本人の生活を主体に捉え必要な医療や看護などを組み込んでいる。また、本人や家族の望む最期を迎えられるように状態の共有を図り、協議を重ねるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会で急変時の対応を身につけることや、入居者一人ひとりの状態から起こりうる状況について職員間で共有するように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し、災害時の対応や避難経路、役割について掲示しつつでも対応できるように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格や生活歴、習慣を把握しプライバシーを尊重した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で入居者の思いや希望に寄りそい様々な選択や自己決定ができるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを尊重し、思い思いに過ごして頂き、集団と個別での生活にメリハリがつくように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれ等、こだわりのある方には続けていただけるようにし、入居者それぞれの自己表現ができるような関わりに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者がたずさわることができる機会を作ったり、畑で作られた野菜を使うことで食材に馴染みを持っていただくようにしている。日ごとに挨拶を当番制にし、たずさわることを実感して頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量の把握に努めるだけでなく、心身の状態や病態の把握に努め、それぞれの適切な量を見極め、補助飲料等を使用しながら調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりに適した口腔ケアを行っている。口腔内の状態によっては歯科と連携して口腔の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンとそれぞれに適した介助方法に心がけている。日中はできるだけトイレで排泄できるように本人の意思を確認しながら必要に応じて2人での介助でも対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分の摂取量を把握し、本人の生活習慣を把握したうえで適度な運動ができるように促している。必要に応じて本人の生活への影響が少ない下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりの好む入浴を把握し、職員で情報の共有に努めている。入浴時には個別ケアにあたり安心して入浴できるようにまた、一人ひとりと深く関わることで満足感を得られるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境や寝具類の調節を行い安眠できるように配慮している。眠れない方にも安心して過ごして頂けるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの現病と持っている症状を把握し服薬の内容も理解するように努めている。内服の変更があればいつも以上に本人の状態観察に気を配るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を好まれる方やスポーツ観戦、会話などそれぞれの楽しみを日々たずさわることができるように心がけている。入居者の笑顔が引き出せるような関わりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った外出は難しいが、散歩やリハビリなど本人の希望や気分に合わせて取り組んでいただけるように心がけている。また、外出できるように歩行運動などに取り組んでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の意向に沿ってお金を所持して頂いている。自由に買い物等に行くことができないため、本人の希望されるものを代わりに購入したり、家族に依頼している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に使用されている。また、その際の必要な支援も行っている。そのほかの方も希望があれば取り次いだり、代わりに要件を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は掃除や整理整頓を毎日行い気持ちよく過ごして頂けるように努めている。室温や明るさ等一人ひとりでの感じ方が異なることは、掛物や場所を調整して心地よく過ごして頂けるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し一人ひとりの好まれる場所で過ごして頂いている。入居者同士で会話をしたり、横になって過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の同意のもと馴染みの家具や日用品や装飾を自宅より持参して頂いて居心地の良い空間づくりを行っている。壁には苑での写真や誕生日プレゼントの飾りを飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの能力を理解して個々に合った支援を行っている。トイレの目印や手すり、それぞれに適した補助具を使用し安全に、安心して生活できるように努めている。		